

ワカイチカラ・求む! 世界に発信する日本の伝統

BUNRAKU



第28期

文楽 研修生募集

募集人員 若干名
研修期間 平成29年4月から平成31年3月まで(2年間)
受講料 無料
応募資格 中学校卒業(卒業見込を含む)以上の男子で、
原則として年齢23歳以下の者。(経験不問)

募集期間

第1次募集：平成28年8月29日(月)から9月29日(木)まで
第2次募集：平成29年1月10日(火)から2月22日(水)まで

選考試験

第1次募集分：平成28年10月25日(火)
第2次募集分：平成29年 3月15日(水)

■面接、作文と簡単な実技試験を行います ■受験料は無料です ■合否の結果は即日発表します ■選考場所は、国立文楽劇場(大阪市)です 協力：公益財団法人文楽協会

第23期 歌舞伎俳優・第23期 歌舞伎音楽(竹本)・第16期 歌舞伎音楽(鳴物) 左記研修生も募集 (お問い合わせは) 国立劇場養成課 TEL.03(3265)7105



第28期 文楽研修生募集

文楽は、太夫の語りと三味線、人形遣いの三業が心をあわせて1つの舞台を作り上げる総合芸術です。

江戸時代初期に大坂で生まれ、いつの時代も変らぬ人間の情を描いてきました。

今日ではユネスコの「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載されるなど、類まれな完成度を誇る芸能です。文楽の技芸員(太夫・三味線・人形)のうち約半数は、この文楽研修修了者で、現在、舞台の第一線で活躍しています。

文楽研修

文楽の技芸員(太夫・三味線・人形)になるための基礎教育を行うことを目的としています。昭和47年(1972)に財団法人文楽協会(現・公益財団法人文楽協会)の協力を得て開始しました。

最初は、研修生全員が太夫・三味線・人形遣いの基本を学びます。適性審査で専攻を決定後、それぞれの専門分野にわかれて、より実践に近い技芸を習得していきます。

研修修了者は、幹部技芸員に入門して公益財団法人文楽協会に技芸員として所属し、舞台に出演することになります。

- 研修時間は原則として、平日午前10時から午後6時まで。但し、2年次以降は土日祝日や午後6時以降に研修がおよぶことも多くあります。
- 研修場所は主として大阪の国立文楽劇場です。年4回の文楽の東京公演時は国立劇場で行います。
- 研修科目は義太夫・三味線・人形の基礎、舞台実習のほか、技芸員になる上で必要な箏曲・胡弓・謡・狂言・日本舞踊・作法・講義(人形浄瑠璃の歴史、演目等)などを受講します。
- 研修開始後8ヶ月以内に適性審査を実施し、正式に合格者を決定します。適性審査後、合格者には、独立行政法人日本芸術文化振興会から伝統芸能伝承奨励費の貸与を受ける資格が与えられます。
- 受講料は無料です。
- 宿舍貸与制度(審査有、有料)があります。

太夫



太夫の使命は、感情をもたない人形に生命を吹きこむことです。登場人物すべての台詞・心理・動作などを1人で語り分け、物語を展開していく重要な役割も担っています。

太夫の専攻課程では、義太夫節独特の発声法や的確な表現の習得をめざして、様々な曲目を履修します。

三味線



文楽の三味線は太棹三味線と呼ばれます。各種の三味線の中でも太く低い響きを持ち、劇的効果をより高める働きを持っています。

三味線弾きは浄瑠璃の感情を表現できるよう、太夫の呼吸に添った演奏を求められます。専攻課程では基本奏法の習得に加え、音色で感情を表現することを学んでいきます。

人形



文楽の人形は、一体の人形を操るのに3人の遣い手が必要です。分担する役割によって、主遣い・左遣い・足遣いと呼ばれます。3人のイキがひとつになって初めて、流れるような美しい演技が生まれるのです。研修では、人形遣いの出発点ともいえるべき「足遣い」を中心に履修します。専攻課程に入ってから、実際の文楽公演での舞台実習も多くなります。

◎国立文楽劇場ホームページで文楽の歴史や解説をご覧ください。

<http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/modules/learn/> [文化デジタルライブラリー:舞台芸術教材で学ぶ]

応募受付

募集期間

第1次募集:平成28年8月29日(月)から9月29日(木)まで

第2次募集:平成29年1月10日(火)から2月22日(水)まで

※上記期間の平日 午前10時~午後6時

選考試験

第1次募集分:平成28年10月25日(火)
第2次募集分:平成29年 3月15日(水)

◎募集要項・応募書類の詳細、所定用紙のダウンロードは国立文楽劇場ホームページ

<http://www.ntj.jac.go.jp/training/trainee.html>

[養成事業-研修生募集]をご覧ください。

